

山麓もよう

交流の家周辺の体験情報をご紹介します！

【子育ての森「そらのこ」】

赤城山のふもと、自然あふれる「森のほいくえん」です。「子供たちと、子育てにかかわる大人たちが、ありのままにいられる場所を作りたい」そんな思いで、2014年9月に開園。満3歳から入園でき、自然の中で過ごすことを基本とした預かり保育を実践しています。



そらのこ代表の大井さんから…
「まずは親子で遊びに来てください♪」

主宰者の大井操さんは13年間にわたる保育園での経験を活かして、子育ての森「そらのこ」を運営しています。「初めてフィールドを見たとき、子どもの『笑顔のびのび遊ぶ』姿がイメージできた」と、生き生きと話してくれました。敷地内の畑には伝統野菜のインゲンが青々と育っています。ホクホクに茹であがったインゲンを子供たちとおいしく頬張る日はもうすぐです。(文：山田)



■所要時間：交流の家から車で15分 ■対象：3歳～就学前のお子さん
■住所：〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山1204-1129
■TEL：027-257-4373 / 080-6802-3749 (代表：大井 操) おおい みさお
■ホームページ：http://morinoyouchien-soranoko.com

リレーcolumn
またっふの目

『ふと、ふりかえる』

文：江原 智淳
【えはら ともあつ】



ニックネームは「ちゅうどん」
職員の中でも一番素敵な笑顔を見せてくれます。

幼少の頃、おじいちゃんと公園でキノコを探したり、裏の竹やぶに竹掘りに行くのが好きでした。他にも、ピロの木に登って実を採ったり、虫メガネを使って紙を燃やしたり、共働きの両親が変わって、おじいちゃんが私に遊びを教えてくれた。そのおかげか一人である時も、遊ぶことには事足りませんでした。

自宅の焼却炉で毎日のように新聞紙や木を燃やし、「今日は石を焼いてみよう」「今日はカエルを焼いてみよう」などと様々なことに興味をもって、様々なチャレンジをしました。その結果、たくさん失敗し、たくさん大人の叱られました。

今思い返せば、子ども達が目一杯チャレンジできるような優しく力強い目。たくさん失敗できるような鋭くも温かい目。そんな目に見守られて育ってきました。そして、その頃の体験が、自分の人生に大きく彩りを加えてくれたように思えます。私の場合、特に叱られた経験が強く心に残っています。

みなさんを育ててくれた目はどんな目だったでしょうか。たまに振り返ってみてはいかがでしょうか。

つぶやき田

【テーマ：夏といえば〇〇〇】

- ビール！ですが、季節に関わらず1年中飲んでいるので、やはり海ですかね。まず水着になるために痩せたいですね。(原田)
- 夏は夜。月のころはさらなり。やみもなほ、蛍の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。(枕草子より) (高瀬)
- 「鮎」です。毎年必ず家族で行く 梁があり、今年は三男がデビュー。次男も鮎料理に初挑戦かな？！(木暮)
- 海で花火を見ながら、かき氷を食べる！浴衣美人が隣にいれば最高ですね…(笑) (今井)
- 群馬の夏＝暑さは超一流です。熱帯夜はエアコンをフル運転で電気代と体の疲れはピークを向かえます。(松崎)
- やっぱり、すいかでしょう！ 昔は冷やしていましたが冷蔵庫だと冷えすぎて甘みを感じなくなりますよ。(杉浦)
- お祭り！はっぴを着て、山車に乗って、酸欠になるまで笛を吹いていた地元のお祭りが懐かしい。(大濱)
- ウリ科の植物。キュウリ、スイカ、メロン、ズッキーニ、トウガン、ヘチマ等々、暑い季節にふさわしいラインナップですね。(森田)
- 「スイカ、ひまわり、花火、海水浴…」と連想するのは沢山あるけれど、蟬の鳴き声に夏！を感じます。(織間)
- 滝の側で涼みながら、マイナスイオンを浴びると気持ちがいいですよ。家族で、こんな夏にしたいです。(田野崎)
- 華蔵寺公園遊園地の降雪ショー☆夏に降る雪、とても気持ちいいですよ！！ビールもいいけどね(ー;) (江原)
- 「ミン、ミン、ミン…」のセミの鳴き声。暑い日差しと共に夏本番がきたというイメージです。(根本)
- 登山のハイシーズン。今年の夏は、久々のテント泊縦走を計画中です。(高橋)
- スイカ、花火、海水浴…。不動大滝の沢登りは毎年子どもとやっています。気持ちいいー！(新井)
- 蚊取り線香のにおい。蚊遣りは伝統の蚊取りぶたが一番可愛いと思います (手島)
- 「海」と答える方が多いと思いますが、海なし県の群馬で「山」を楽しんでみてはいかがですか。(田中)
- 今年の 赤城 も「暑い」です。蜂・へび・ブヨ 熱中症 など 野外活動の安全対策忘れずに…… (鈴木)
- 蚊取り線香。焚いても蚊は飛んでいるけど、香りがたまりません。マッチのつけ方は、蚊取り線香で覚えましょう。(渡邊)
- 皆さん、気温30℃越えの猛暑が続きますが、体調はいかがですか？無理をしないように頑張りましょう。(佐藤)
- 海。小さい頃は、東京湾の川沿いで夕暮れまでハゼ釣りしていました。もうすぐドングリの季節。(山田)
- 毎年恒例の庭でのプールですが、最近は準備片付けが面倒なので、風呂に水を入れて遊ばせています。(阿左見)
- 5日間のキャンプ。子ども達に会うのも1年にこの5日間のみ。成長した姿を思い浮かべながら毎日過ごしています。(落合)
- やはり風鈴。いつか自分で作った風鈴を飾りたい。やはり絵付けは難しいのかなあ。(黛)

次号は、
10月1日発行予定!

体験の風を
おこそう

「交流の家HP」
「Facebook」で
当所の情報を更新中



風のおと

『不審電話』

先日、昔の知人にどうしても連絡することがあり、別の知人からその方の家の電話番号を教えてくださいました。ところが何回掛けても受話器が挙がりません。4回目くらいに「これは不審電話に思われている」と直感しました。

さて、困りました。電話番号以外に住所もメールも聞いていなかったため連絡方法がありません。結局10回目くらいによく通じましたが、私は、以前にもこれと似た体験がありました。それは、携帯電話を家に忘れたため、そのことを家内に伝えようと、やっと見つけた公衆電話から我が家に掛けても呼び出し音が鳴り続け、ついには留守番電話に切り替わります。「お～い、私だー！」と聞き覚えのある叫び声を聞いて

てか、やっと電話に出てもらえました。

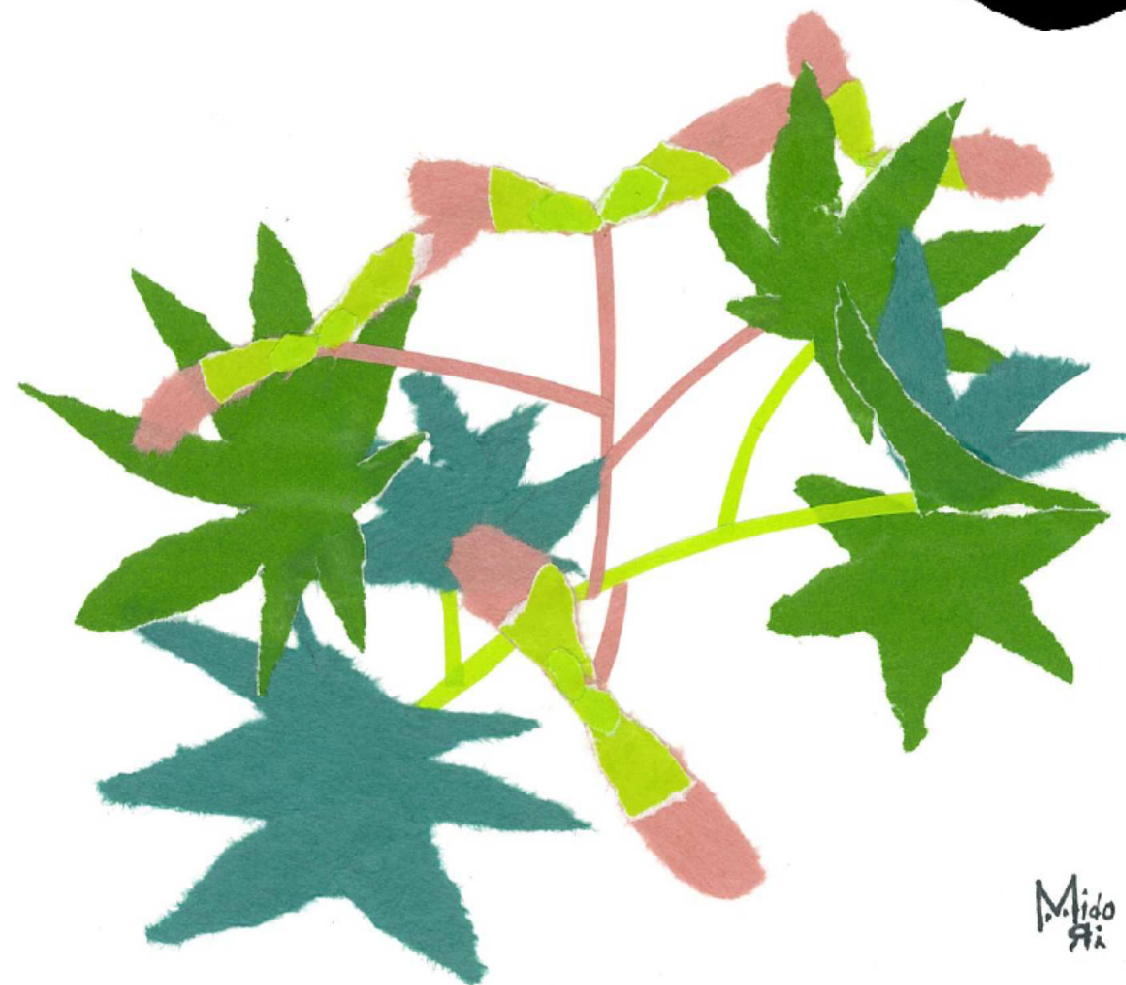
電話を使った詐欺などを警戒して、知らない電話番号には出ない人も多いようです。また、携帯電話もそろそろサービス開始から30年になり、私も20年以上使っていますが、「あってよかった」と思えたのは数えるほどです。

むしろ、ない時代に連絡方法を駆使していたころが懐かしく思えます。今は何時でも電話がかけられる代わりに、配慮が必要な時代になりましたね。

所長 杉浦俊之

カラゴロリ

8-9
2015



Mido
Ri

「イロハモミジ」

モミジの代表格である、イロハモミジ。名前は知らなくても、実物を魅せれば、多くの人が見たことがあると答えるのではないだろうか。

葉や種だけではなく、冬芽もまた特徴的で、枝先に2つ並ぶ。春から冬にかけて1年中楽しむことができるので、是非四季折々、表情を変えるイロハモミジを観察してみてください。赤城山にも交流の家にもたくさんありますよ。

国立赤城青少年交流の家 <http://akagi.niye.go.jp/>

TEL:027-289-7224 (9:00~18:00)

FAX:027-289-7226

あかぎ カラゴロリ

検索

〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山27

E-mail:akagi@niye.go.jp



～できるところからはじめてみよう～

5月16日(土)～17日(日)の1泊2日でボランティア養成セミナーを開催しました。県内外の高校生以上を対象とした事業で、高校生7人、大学・専門学校生24人、社会人2人の合計33人の参加がありました。

セミナーの企画・運営は交流の家の法人ボランティアと共に、当日の進行やセミナー参加者のサポートなども法人ボランティアの方々を中心に行ってもらいました。講義では、大学の教授を講師に、青少年教育についてのお話をいただいたり、交流の家の職員がボランティアへの期待や心構えを話したりしました。

また、救急救命法についてAEDを実際に使い、体験を通して学ぶことができました。その他にもドラム缶で作ったかまどでのピザ作り、ボランティアの意義について考えるグループワーク、先輩ボランティアや交流の家の職員と語り合う時間など、どの研修も先輩ボランティアの思いからボランティア活動のよさを感じられた時間になりました。

最後には、これまでに交流の家の事業に参加した先輩ボランティアが主催事業について紹介しました。どれも思いの詰まった内容で、活動の魅力が伝わったと思います。今回のセミナーの参加者は、こんな人と関わってみたい、こんな人のお手伝いがしたい、活動を自分の成長につなげたいなど、それぞれの思いをもって参加してくれました。今後も赤城法人ボランティアの方々と共に交流の家の活動を盛り上げていきます。(文：田野崎)



H27 国立赤城青少年交流の家 教育事業 ボランティア養成セミナー

ボランティアの想い



■郷 広人(あっち) ■今回のボランティア養成セミナーをきっかけに参加者のみなさんの「はじめの一步」を応援できたという気持ちで関わらせていただきました。本当に素敵な2日間でした。

■小山 潤也(じゅんじゅん) ■不安が好奇心に変わっていく、そんな時間を仲間と一緒に分かち合える2日間でした。時に大笑いしながら、ボランティアについて語った時間は青春の1ページです。

■郷 香織(すぎちゃん) ■とても素敵な2日間でした。参加者の方もボランティアスタッフも赤城という場所とボランティア活動をもっと身近に感じられるようになったと思います。

■原口 隼一(たらちゃん) ■ボラセミを終えて、群馬には熱い思いを持って活動しようとする若い人が多いと思いました。今後たくさん学びながら、赤城で生き生きと活動していきたいです。

担当職員の想い



■根本 純一(ねもじゅん) ■このセミナーはボランティアが中心となり運営ができる機会です。参加者がその姿を見て、「自分もやってみたい」と感じてもらえると思います。さらに参加者が「できることから始めてみよう」と何かしらのアクションを起こすことを期待しています。

■田野崎 和人(たのっち) ■このセミナーでは、赤城法人ボランティアの思いの強さを感じました。この思いが後輩ボランティアに繋がり、互いの活動をより充実したものにしていくことを望みます。

これからの動き



下記の事業の詳細はこちらまでお問合せください ⇒TEL027-289-7224(国立赤城青少年交流の家)

■秋のアウトドアフェスタ 10/25(日)

「今日がアウトドアデビューの日」をキャッチフレーズに行う、誰でも気軽に参加できるフェスタです。参加費無料で、野外力検定やクラフト、火遊びなどたくさんの体験ができます。

■自然体験指導者養成研修 11/21(土)～23(月) 2泊3日

自然体験活動の指導に当たる指導者の養成をします。学校教育における体験活動の位置づけや自然体験活動指導者のしくみと役割を学びます。今年はボランティア養成セミナーと合同で行います。NEALリーダーの資格が取得できます。

プログラム紹介!



【後閑養鶏園】

『命と健康 おいしさを求めて』を創業理念として赤城南麓の粕川町で安心安全の地鶏卵を生産する「後閑養鶏園」の体験プログラムをご紹介します。

後閑養鶏園では、鶏糞を堆肥にして畑に入れ、無農薬で化学肥料を一切使用しない循環型農業を行っています。こだわりの野菜、こだわりの卵で作った料理は絶品です。人数や体験時間によって内容も異なりますので、体験内容についてはご相談下さい。

体験可能なプログラム

■卵を使った料理体験 (国立赤城青少年交流の家で体験できるプログラム)

プリン・パンケーキ・シフォンケーキのデコレーションなど

■農作業体験 (後閑養鶏園でのプログラム)

農場見学や農作業、野菜の収穫体験など(時期によって異なる)

■料金:1,000円～要相談

■時間:45分～2時間



いろんなイベントにも出店しています!!

- 所要時間:交流の家から30分
- 対象:幼児から大人まで、最大150名程度。幼稚園や保育園、学校も受け入れ可能です。
- 住所:前橋市粕川町膳76-1 ■定休日:火曜日
- 電話番号:027-285-4125 (お問い合わせ時間:14:00～16:00)
- ※詳細は後閑養鶏園へお問い合わせください。

国立赤城青少年交流の家で活躍する、非常勤講師やボランティアの方をご紹介します

この人に会いたい

●国立赤城青少年交流の家 研修指導員(AAP)

中嶋 陽平さん



学童の先生を勤める傍ら、交流の家の事業にボランティアスタッフとして参加し、あかぎアドベンチャープログラム(以下AAP)の講師としても活躍されている中嶋陽平さん。「よんぺー」の愛称で知られています。4年前までは、いい学校に通い、収入の安定した仕事に就くという、周りの常識に流されて生きてきたと話してくれました。しかし、前職場での経験から、自分で人生をつくりたい、自分で人生をつくっていける人を増やしたいと考え、教育の現場に進むことを決めたそうです。

いつも優しい口調で話してくれるよんぺー。とっても癒されます。

交流の家の事業、風つ子ファームでは、大きなカマキリを持ってニコニコしていたり、石をひっくり返して生き物を探したりしています。その少年のような心と独特の空気感で子どもたちの心を掴み、すぐに仲良くなってしまいます。

これからは、アドラー心理学やコーチングを学びながら、家庭教育に貢献していきたいそうです。赤城の少年よんぺーにみなさんも会いに来てください。(文:渡邊)

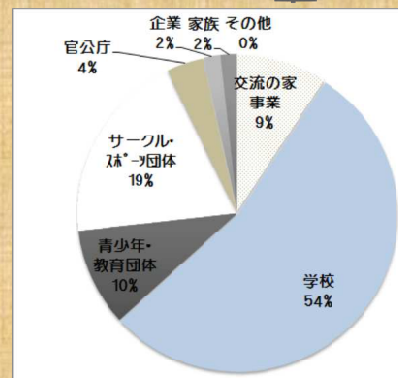
利用のようす(6～7月)



あかぎをつかう!

- 6月の利用者数 …16,316人 145団体
- 7月の利用者数 …14,619人 94団体

★利用団体 種類別の割合⇒



施設周辺の植物

『モチモチの木』という童話をご存知ですか? 物語の主人公、「豆太」は「モチモチの木」が怖く、夜は前を通ることができません。しかし腹痛に苦しむ「じいさま」を助けるため、勇気を振り絞って木の前を通り過ぎ、助けを呼びに行く、というお話です。



写真は花期の5月。現在の姿はいかに?!

この「モチモチの木」、所内のいたるところで見つかります。小学校3年生の国語の教材として使用されており、教育の関係者、そして子供のときに読んだ方は「あの話か」と思われるのではないのでしょうか。

「この木」の正体は「トチノキ」。交流の家の皆沢橋を渡ってすぐにあります。教科書の世界から外へ飛び出し、「モチモチの木」を赤城で探してみては?

野外活動における・リスクマネジメント

入門編

第10回

プログラムを見ていると、多くの体験を子どもたちに体験させたいが故に、1日にたくさんのプログラムを入れているのが目に付きます。経験がある人ならこなせますが、はじめて体験する子どもたちにとってはちょっと大変なようです。

登山から帰ってきて野外炊事、その後キャンプファイアー、入浴では息つく暇がありません。子どもたちも「急いで」とせかされて大変そうです。宿泊環境が変わるだけでも、大変なストレスのようで、発熱する子も見られます。

交流の家ではプログラム相談の際、学校のねらいに応じて効果的に学習できるよう様々な提案をしています。流れをしっかり作り、順番を入れ替えるだけでゆとりが生まれることもよくあります。疲れは病気やケガを引き起こす要因になります。

子どもたちにとっても大切な思い出が病気やケガだったということにはしたくありませんよね。ぜひゆとりのあるプログラムをご検討ください。(文:高瀬)